

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400976		
法人名	株式会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺本館		
所在地	名古屋市西区新道一丁目3番12号		
自己評価作成日	令和 2年11月 5日	評価結果市町村受理日	令和 3年 5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2370400976-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	令和 2年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

マザーズの理念である「人生楽しく自分らしく」を常に意識し、住人様1人1人の思いに寄り添う介護を目指しています。月に一度のユニット会議、従業員の面談時には必ずこの理念について伝え、住人様を巻き込んだ、笑顔あふれる毎日を心がけています。特に今年はコロナの影響で家族様との面会にも制限があり、大好きな外出もなかなかできないので、室内のレクリエーションや体操、花壇作り、地域の清掃など感染予防に注意し行ってきました。ご近所の方から清掃用のトングをいただいたり、10月には西消防の方を招き、地域運営推進会議と防災訓練を行いました。「流しそうめん」の時には、上手くつかめず皆で大笑いしたことが思い出されます。いつまでも元気で過ごしていただきたく毎日の嚥下体操、棒体操、カラオケなどのレクや、医療、訪問リハビリ、歯科などと連携し、健康維持に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナウイルスの為、地域の行事が中止になるなか、こちらから企画、働きかけをし「流しそうめん」「防災訓練」などに会長様や民生委員、いきいき支援センターの担当者の方との交流を行い、地域の一員としての役割を果たしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	清掃活動などを行うと、馴染みの近所の方から「いつもありがとう」などの声掛けをいただきます。トングを下さったり、手づくりのデザートやおかずの差し入れがあります。イベントへの参加で来ていただく機会もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議などで地域の方に理解、支援の方法について話をしている。清掃活動や花壇作りなどで積極的に外に出て話すことで認知症への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長様、ご家族様、民生委員様、いきいき支援センターの方には積極的に参加くださり、率直な意見を頂いています。地域防災協力の地域提携を結んでいる。防災訓練を一緒に行うこともある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所の方もホームに訪問があり、利用者の生活を支えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外施錠せず、ご利用者様の外に出たいという願いを極力阻害しないようにしている。皆で協力しながらご利用者様の安全を見守りながら対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	弊社で身体的拘束適正会員を立ち上げている。3か月に1回。参加している。委員会であがった項目を持ち帰り、日々身体拘束になっていないかどうかをユニット会議等で検討している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護団体と契約しているご利用者様がいます。月に1度は来設される為、その都度近況報告をしている。そのご利用者様の入退院時には、来てくださることも多く、職員への理解は徐々に浸透してきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に話す内容を会社と討議してご利用者様、ご家族様を交えて懇切丁寧に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々ご意見を伺うようにしているが、定期的に利用者様やご家族様からアンケートをとり、職員に公表し必要があれば会議などで話し合っている。地域運営推進会議に家族様が参加してくださる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	弊社で行っている職員アンケート、面談、ユニット会議や、内部監査の聞き取りを通して会社に対して要望をあげている。職員の要望などをつき1回の管理者会議や部門別会議にて事案をあげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談、新職員には管理者が申し送り時に参加したり、話しやすい環境に努めている。賞与時には自己評価表と職員アンケートなどを用いて管理者・スタッフが共に成長できるツールを設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの関係で、ネット配信形式で研修を受けている。全従業員が月に必ず1～2講座を受け、管理者がレポートのフィードバックをする。社外研修、初任者、実践者、実務者では会社からのサポートが充実している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区内のコンソーシアムが毎月行われている。今年はコロナの関係でほとんどがキャンセルになってしまった。外部研修では、同業他社の職員との交流がある。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない頃の不安の心理状況を理解し、帰りたいなどのきもちを否定せず、傾聴することで少しずつ信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の来設時には積極的にお声掛けし、日々の様子を話したり、最近ではコロナで面会できないときもあるので、SNSや直接お電話させていただき、些細なことでもはなしていただける機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント等の情報やご本人のお話やご様子から支援の方向を見極めている。ご本人から直接お聞きする事を一番と考え、ゆっくりと環境に慣れていただけるようコミュニケーションを密に取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で職員がすべてを行わず、洗濯物を一緒に畳んだり、食器洗いを一緒に行うなど、ご利用者様の「できること・したいこと」をすこしでも実現できるように一緒に楽しみながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様、家族様、双方よりお話をさせていただきやすいような環境を整え、それぞれの家族様にあったかかわりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚の方、ご友人の方より連絡をいただくことがあり、ゆっくりと話ができる環境を整えている。馴染みのお店にお連れした際には、店員様が副支配人までなられて「立派になって」と涙される場面もあった。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルを囲んでみんなで相撲を見たり、話が弾んでいる。車いすのご利用者様をほかのご利用者様が押してくださったり、食事の準備をお互いにしたり、職員が間に入ってもご利用者様中心の生活を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りをさせていただいたご利用者様のご家族様が弊社のほかの事業所に入居されている方がおり、管理者同士で近況を伺ったり、スーパーなどでお会いすることもあるので、お声掛けさせていただくこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に沿った生活作りをしている。体調や安全確保できるなどの状況を整え、日々過ごしていただけるようにしている。その際はご本人ののぞみは何か心に傾けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの情報をもとに行っているが、ご本人ご家族様、ご友人などからの情報を集めることにも力を入れている。そこで出た情報を職員で共有し、プランや生活歴に反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々体調やお気持ちは変化することを念頭において様子を職員間で申し送りし、共有している。心身の状況に合わせて臨機応変に対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは現場スタッフが主でその人らしい介護計画を目指している。ご家族様に聞き取りをしたり、カンファレンスを行い支援の方向をご本人、ご家族様、医療関係者とともにチームで考えている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌にご本人の様子、スタッフの支援や気づきの項目に分けている。ケアプランを反映するため、ユニット会議で書き方の勉強をしたり、実践できるように職員間で話し合いができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様から出た「～したい」をかなえられるような行事計画や日々の生活の中でのニーズを職員がアンテナを張り、可能な限りこたえていけるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの近所のスーパーや八百屋に買い物に行く。喫茶店でモーニングを楽しむ事もある。地域資源を生活の一部として活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診時にご本人の様子を医師、看護師・薬剤師に伝え心配事の相談にのってもらっている。受診の際にはご家族様にも相談をし納得のいく医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回専属の訪問看護が入り、ご利用者様の健康状態を把握しているので、管理者・スタッフはご利用者様の近況の報告、相談をしている。急な体調の変化があった時には随時連絡し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の基本情報を速やかに病院へ連絡できるようにファイルを準備している。入院中は定期的に病院に向いたり、電話でご本人の様子を担当医師、看護師から伺うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについてご本人、ご家族様に書面にて説明。終末期には再度可能であればご本人、ご家族様の意向を確認。医療介護連携をし、ご本人らしく終末期をむかえていただけるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成。常時見えるところに掲示。ユニット会議などでも確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回訓練を行っている。非常食、常備水の配置、地域運営推進会議を活用し、町内会長様はじめ、近隣の最新情報の収集などを行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニット会議や面談、申し送り時に丁寧な言葉かけについて、職員と話し合っている。ご本人の性格やペースなども考慮しながらここにいてもよいという気持ちを持っていただけるよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の場面でご本人と話をしながら決めたり、食事や更衣時にはどちらを選んでいただくのかなど、選択の場を多く持つことで表出しやすい場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画である程度の予定は決まっているが、ご利用者様のペースやその日の気分によって変わることも想定し、希望に合わせて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と一緒に選んだり、時にはご自分で選択できる場面を作っている。季節に応じた洋服を選んでいただけるように声掛けすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や盛り付け、食器の下膳、食器洗いなどできることをお願いしながら一緒に行っている。全員がお好きなものばかりではないので、毎回ではないが多少個別に対応することもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に応じて食事量、水分摂取量を記録している。脱水傾向に陥りやすい方もいるので、細かく、いろいろな手段での水分摂取を心がけている。栄養補助ドリンクを追加することもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援が必要なご利用者様については歯科医師、衛生士と相談しながら口腔ケアをしている。衛生士より口腔ケアの方法を講習してもらうこともある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンを知り、適宜トイレ誘導や声掛けをする。リハパン・おむつを使用される方については皮膚観察をしっかりと行う。ご本人の体調に合わせ、またご家族様と相談をし、排泄用品の選定等を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による健康への影響を職員間で話をしている。薬に頼らず、気持ちよく排泄していただけるよう、職員は食事や飲み物の工夫を常に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気持ちの状態に応じて臨機応変に対応している。時間の希望にも対応している。拒否の強いご利用者様の対応をユニット会議で話し合い、気持ちよく入浴できるよう工夫し、支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はご本人の洗濯に任せているものの、メリハリのある1日を過ごしていただくために、就寝時間の声掛けをする。就寝中は安眠な環境作りに努めている。寝付けなときにはゆっくりと話を聞くなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬報を職員で共有している。服薬時の事故を防ぐために、専用ボードの工夫や、スプーンにのせるなど対応をしている。処方薬の変更や、屯用薬の使用については必ず記録に残し、申し送りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調をみながら食事の配膳、食器洗い、洗濯物を畳む、花壇の水やりなど、できる範囲で役割を担ってくださる。レクや、体操などは、フロアをまたいでのご利用者様の交流があり、楽しみにいらされている方も多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出かけたり近所の馴染みのスーパーに出かけたりする。イベントを外で行うこともあり全員参加で外で楽しむこともある。受診の帰りに「2年ぶりに名古屋キャッスルでランチ」を楽しまれた方もいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の個人的なお金は事務所で管理しており必要な時にその都度お渡しし、スタッフも同行する。家族様にもお金の使い道は報告させていただいており、大切に使うように話をさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちのご利用者が連絡を取りたいとの申し出があれば、スタッフが操作することもある。ホームからご家族様へご利用者が電話をされることもある。絵手紙がご親戚から送られてくる方にはお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間でくつろいでいただけるようテーブルの位置を変えたり席替えをしたりご利用者様にとって居心地の良い空間となるようにしている。玄関には季節の花を一緒に植え、水やりついでに気分転換していただけるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファーでは、ご利用者様が自由に座っていただき、くつろがれている。自由に席を移動し、TVの見やすい場所に行ったり、おしゃべりできるよう声掛けをさせていただくこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドの位置を変えたり、家族様が持ってきてくださるお気に入りのものをお部屋に置いたり、ご本人の居心地の良い居室になるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のスペースは限られているので、家具の配置を考え車いすで自走しても安心であるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400976		
法人名	株式会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺		
所在地	名古屋市西区新道一丁目3番12号		
自己評価作成日	令和 2年11月 5日	評価結果市町村受理日	令和 3年 5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2370400976-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	令和 2年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

マザーズの理念である「人生楽しく自分らしく」を常に意識し、住人様1人1人の思いに寄り添う介護を目指しています。今年はコロナウイルス感染予防のため、ほとんど外出できず、その中でどうやって住人様と楽しく過ごせるか？が特に課題でした。地域の行事がほとんど中止となったので、本館でできるイベントを企画し来ていただける時には地域の方も呼び出し、関わりを継続できるように楽しみながら活動しています。「流しそうめん」の時には、みんなで大笑いをしたことが印象に残っています。10月の地域運営推進会議では、「防災訓練」も一緒に行い本館が災害時の頼れる場所になりたいと思っています。ユニット会議、面談時には必ず「住人様を巻き込んだ支援」について話し食事、掃除、洗濯などを住人様とともに「主役は住人様である」ことを議題にし、笑顔あふれる毎日を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所

今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。

①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ感染予防ため地域の行事が中止になるなか、事業所から企画、働きかけをし、イベントや「防災訓練」などに地域の方をお呼びしました。また清掃活動など地域の一員としての役割を果たしつつ楽しく生活しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「喫茶店に自由に行きたい」ご利用者様には地域の喫茶店の方に電話を下さるようお願いしたり、買い物の時には段差のある所で手を差し伸べてくださったり名前を呼んでくださったり、馴染みの関係ができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	朝のゴミ拾いの時には声をかけてくださったり、「トンクで拾わないと危ないよ」とトンクを下さったり、「お疲れ様」と声をかけてくださるなど、認知症への理解は少しずつ深まっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長様、ご家族様、民生委員様にはほぼ毎回ご参加いただき、率直な意見をいただき地域防災協力の地域提携を結んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所の方もホームに来訪があり、ご利用者様の生活を支えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外施錠せず、ご利用者様の外に出たいという願いを極力損害しないようにしている。皆で協力しながら、ご利用者様の安全を見守りながら対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	弊社で、身体的拘束適正化委員会を立ち上げている。3カ月に一回参加している。委員会で挙げた項目を持ち帰り、日々身体拘束となっていないかどうかをユニット会議等で討議している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護団体と契約しているご利用様がいます。複数の団体があり、訪ねて来られたり、入退院の時にはご協力いただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に話す内容を、会社と協議し、ご利用者様、ご家族を交えて懇切丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々ご意見を伺うようにしているが、定期的にご利用者様やご家族様からアンケートを取り、職員に公表し、必要があれば会議などで話し合っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	弊社で行っている社員アンケート、面談、ユニット会議や、内部監査の聞き取りを通して、会社に対して要望をあげている。社員の要望などを月1回の管理者会議や、部門別会議にて事案をあげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談したり、新職員には週1回の面談をしている。賞与時期は、自己評価表と職員アンケートなどを用いて管理者・スタッフが共に成長できるツールを設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年はコロナでネット型の「eラーニング」を月に1～2講座、全従業員受けることとなった。外部研修にも参加できるようシフト調整を行っている。初任者研修・認知症実践者研修への参加も会社から案内がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区内のコンソーシアムが毎月行われているが、今年はコロナの関係でなかなか開催されていない。外部研修などでは他法人の職員との交流もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない頃の不安の心理状況を理解し、帰りたいなどの気持ちを否定せず、傾聴することで少しずつ信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の来訪時には、積極的にお声掛けし、日々の様子を話したり、些細な事でも話していただける機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント等の情報やご本人のお話やご様子から、支援の方向を見極めている。ご本人から直接お聞きすることを一番と考え、ゆっくりと環境に慣れて頂けるよう、コミュニケーションを密にとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で利用者様の「出来る事・したい事」を、少しでも実現できるように支援しながら、一緒に楽しみ、張りのある生活になるよう工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何時でも自由にご家族様が来館頂ける環境を整えている。。ご家族様からのご意見をお聞きし、気づきを頂く場面や、ご家族様を巻き込んでいけるよう、こちらから働きかけをお願いすることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や関係のある方が気軽に来訪していただき、時には一緒にいて頂いたり、外出に連れ出して頂けるように働きかけ、時間を過ごして頂く事もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性については、スタッフの中で共有し、時には仲立ちをしながら様子をみている。ユニットに分かれているものの、垣根を超えた関わりを心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの看取りをさせて頂くことがある。その人らしさを最後まで大切にすることで、終了後もご家族様が来訪され、お話させて頂く事がある。そういったご家族様の心にも寄り添っていくことを心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様に沿った生活作りをしている。体調や安全確保できているなどの状況を整え、日々過ごして頂けるようにしている。その際は、ご本人様の望みは何かに心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを基に行っているが、ご本人、ご家族、友人などからの情報を集める事にも力を入れている。そこで出来た情報を職員で共有し、プランや生活歴に反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々体調、お気持ちは変化することを念頭に置いて様子を職員間で申し送りをし、共有している。心身の状況に合わせて臨機応変に対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは現場のスタッフが中心となり、介護計画の継続、見直しについてユニット会議などで、話し合っている。ご本人、支援に係るご家族様・医療等専門職の情報や意見を取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌にご本人様の様子・スタッフの支援や気づきの項目に分けている。ケアプランを反映できるようにユニット会議で書き方の勉強をしたり、実践できるように職員間で話し合いが出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様からでた「～したい」をかなえられるような行事計画や、日々の生活の中でのニーズを職員がアンテナを張り、可能な限りこたえていけるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの理容室、馴染みの近所のスーパーや八百屋に買い物に行く。また、喫茶店に一人で行きたい住人様にはマスターに協力していただき見守るなど地域資源を生活の一部として活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診時にご本人の様子を医師・薬剤師・看護師に伝え心配事等の相談に乗ってもらっている。受診の際にはご家族様にも相談をし納得のいく医療を受けられるように支援する。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回専属の訪問看護が入り、利用者様の健康状態を把握しているので、管理者・スタッフは利用者様の近況報告、相談をしている。急な体調の変化があった時には随時連絡し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の基本情報を速やかに病院に提示できるようにファイルを準備している。入院中は定期的に病院へ出向き、ご本人の様子を担当医師、看護師から伺うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについてご本人、ご家族様に書面にて説明。終末期には再度可能であればご本人、ご家族様の意向を確認。医療介護連携をし、ご本人らしく終末期を迎えて頂けるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成。常時見えるところに掲示。ユニット会議や新スタッフには面談にて伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練を行っている。非常食、常備水の配置をしている。地域運営推進会議で訓練を一緒に行い、区域の消防とも避難の経路、通報について共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニット会議や面談、申し送り時に丁寧な言葉かけについて、職員と話し合っている。ご本人の性格やペースなども考慮しながらここに居てもよいという気持ちを持っていただけるよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の場面でご本人と話をしながら決めたり、食事や更衣にはどちらを選んでいただくのかなど、選択の場を多く持つことで表出しやすい場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	メリハリのある1日を送っていただきたいとは思いつつ、ご本人の気分や健康状態を考慮し、その日のご本人のペースに寄り添いながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と一緒に選んだり、時にはご自分で選べる場面を作っている。季節に応じた洋服を選んで頂けるように声掛けすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や盛り付け、下膳、食器洗いなど出来る事をお願いしながら一緒に行っている。全員がお好きではない事もあるので、毎回ではないが多少個別に対応することもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に応じて食事量、水分摂取量を記録している。食が細い方には栄養補助ドリンクの処方をお願いしたり、逆に塩分、糖分に気を付ける方には、低カロリーのおやつなどを準備させていただくなど、個別に対応させていただく。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援が必要なご利用者様については、歯科医師衛生士と相談しながら口腔ケアをしている。衛生士より、口腔ケアの講習をしてもらうこともある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンを知り適宜トイレ誘導や声掛けをする。リハパン、おむつを使用される方については皮膚観察をしっかりと行う。ご本人の体調やご家族様と相談し排泄用品の選定を行う。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による健康への影響を職員間で話をしている。薬に頼らず、気持ちよく排泄していただけるよう、職員は食事や飲み物の工夫を常に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気持ちの状態に応じて臨機応変に対応している。時間の希望にも対応している。絶対今日は入浴しなければ、という職員の都合ではなく、気持ちよく入って頂く事に重点を置いた支援を心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はご本人の選択に任せているもののメリハリのある1日を過ごして頂けるよう就寝時間の声掛けをする時もある。就寝中安息を心掛けている。寝付けない時にはゆっくりと話を聞くなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を共有している。服薬事故を防ぐために専用ボードを活用したり、スプーンにのせるなどの対応をしている。薬の形状を医師、薬剤師と相談し変更時には必ず記録に残し、申し送りをする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調を見ながら食事準備。洗い物、洗濯たたみ、花壇の水やりなどできる範囲で役割になって頂く。カラオケや体操などはフロアをまたいでのご利用者様の交流があり楽しみにされている方も多い		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時には散歩したり近所の馴染みのスーパーに出かける。イベントを外で行うこともある。近くの事業所にでかけたり、「一人で喫茶店に行きたい」方にはマスターに協力していただいている。家族様とモーニングに出かける方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の個人的なお金は事務所で管理しており必要な時にその都度お渡ししスタッフも同行する。家族様にもお金の使い道は報告させていただいており、大切に使うように話をさせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちのご利用者様にはご自身で連絡を取ることが出来るようになっている。お持ちでない方も、事務所からご利用者様が電話をする事も出来る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間でくつろいでいただけるようテーブルの位置変えたり席替えをしたりご利用者様にとって居心地の良い空間となるようにしている。玄関には季節の花を一緒に植えて水やりついでに気分転換して頂けるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファではご利用者様が自由に座って頂き、くつろがれている。自由に席を移動し、TVの見やすい場所に行ったり、おしゃべりできるように声かけさせていただくこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットの位置を変えたり、昔の趣味のものを家族様が持ってきて下さり、それを飾ったり、ご本人の個性と居心地の良さができるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のスペースは限られているので、その他の部分で家具の配置を考え車いすで自走しても安心であるように工夫している。		